

学校教育実践研究

(1 単位)

専門 > 教育学部 > 課程共通科目

3 年、4 年 通年(前→後)

週間授業

遠藤 貴広 (endo@u-fukui.ac.jp、0776-27-8964 (2518)、総合研究棟 V (教育学系 1 号館) 6 階)

岸 俊行 (t-kishi@u-fukui.ac.jp、0776-27-9943(2581)、教育学系 3 号館 4 階)

■ナンバリングコード

05-CFE-305 教育学部 学校教育課程 / 課程コース共通科目 (課程) [3 年次レベル]

■授業概要

教育改革をめぐる提言と附属学校園の教育実践研究を手がかりに、新しい時代に求められる学校教育・教育実践のあり方をチームとして協働で探究する。世界の教育改革、学習指導要領をめぐる議論、新しい時代の教育へのさまざまな研究を検討しつつ、自分たち自身でも求められている学校教育のあり方を探る。3 年生は、主免教育実習で経験したことを先輩・後輩に伝え、その経験の意味を探る。異コース異学年のメンバーからなるチームで、それぞれの学年の役割を担いながら、協働探究の成果をレポートやポスター等にまとめる。

■到達目標

新しい時代に求められる学校教育・教育実践のあり方を探る

○ 各種資料を手がかりに、新しい時代に求められる学校教育・教育実践のあり方について協働で探究し、探究の成果を報告することができる。

○ 主免教育実習で経験したことを先輩・後輩に伝え、その経験の意味を広く伝えることができる。

■授業内容

第 1 回：前期合同オリエンテーション

(今年度最初のオリエンテーションとして、チームの探究をファシリテートすることの重要性について、学年別に講義を行った後、新チームで初顔合わせを行い、「意図されたカリキュラム」のみならず「実施されたカリキュラム」や「達成されたカリキュラム」「経験されたカリキュラム」についても、学年をまたいだチームで協働探究していくことを再確認する)

第 2 回：これまでの協働探究の成果を確認する一前年度の個人最終報告書とチームポスターの検討

(これまでの学習経験を綴った前年度の個人最終報告書をチームで協働検討しながら、メンバー相互の「経験されたカリキュラム」を確かめ合い、それぞれの学習経験を相対化させるとともに、今年度のチームでの「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた見通しを共有する。ここで 3 年生は、2 年次までに学んだことを後輩たちに伝える中で、これまで学んだことの意味を改めて問うとともに、それが教育実習に向けてどのような意味を持つことになるのかを展望する)

第 3 回：公教育の課題に関わる資料の検討

(公教育の改革に関わる重要資料をチームで検討しながら、学習指導要領改訂をめぐる議論を中心に、カリキュラムと教育方法や学校教育の改革に関する課題・論点を探る)

第 4 回：実習校研究紀要の検討

(実習校である附属学校園の教育実践研究に注目し、研究紀要や著作をチームで検討しながら、実習先の教育実践研究の展開を長いスパンで確かめ、教育実習の事前学習をより深いものにする)

第 5 回：公教育の課題に関わる文献の検討

(公教育の課題を知るための図書として 3 年生は専門書を検討し、その内容についてチームで議論しながら、学校教育実践の課題を整理する)

第 6 回：後期オリエンテーション：前期からの課題の確認と後期の展望

(学校教育実践の基礎概念として、授業を構成する要素を再確認し、チームで進める教育実践研究に位置づけることで、自身が実習先で実践した授業を再検討する新たな視点とする)

第 7 回：教育実習の経験を聴き合う

(教育実習で実践した授業を事例に、学習指導案の作成を始めとする授業づくりの課題をチームで具体的に共有し、実際に授業を実践する上で必要となる基礎的な指導技術を確認した上で、授業デザインのポイントを協働で探る)

第 8 回：新たな協働探究の足場を探る

(1・2 年生が夏休み中に読み込んだ課題図書の内容をチームで共有しながら、チームの協働探究を支える新たな視点を探り、教育実習や授業研究での経験をより広い視野から検討し直すことにつながる)

第 9 回：教職の展望一前年度の教職学習個人誌の検討

(卒業生が「学びの軌跡の集大成」として残した教職学習個人誌をチームで検討しながら、先輩の長期にわたる実践研究の展開を跡づけ、自身の授業づくり・実践に向けて大学生のうちに何をどのように学んでおくべきかを再確認する)

第 10 回：最新動向の検討

(チームテーマに関わる先行研究や最新情報をレビューしながら、チームテーマをめぐるどのような議論が蓄積されているかを確認する)

第 11 回：個人最終報告書の構想

(1・2 年生のチームポスターの構想を支えながら、教職課程で学んできたことを振り返り、それを自身のキャリア全体の中に位置づける個人最終報告書の構想を行う)

第 12 回：チーム考察の検討、個人最終報告書プロットの確認

(新たな公教育の展望に向けて、チームとしてどのような考察を示すか、その考察を支える学術的根拠が揃えられているかを確認しながら、関連分野の基礎理論の再検討を行うとともに、自身の個人最終報告書のプロットを確認し合う)

第 13 回：個人最終報告書草稿の検討

(1・2 年生が一旦まとめ上げたチームポスターを改めて検討し、チーム考察の根拠として用いている当該分野の研究の知見に問題がないか、最終確認を行うとともに、ここまでチームで協働探究したからこそ見いだせるようになった研究課題やリサーチクエスチョンを明らかにする。また、自身の個人最終報告書の草稿をチームで検討する中で、執筆者個人では気づけなかった新たな振り返りの視点を共有し、教職課程での学びをより深く省察することにつなげる)

第 14 回：教育実践研究の展開を振り返る：チームでの協働探究の振り返りと公開クロスセッションの準備

(チームでの協働探究の歩みを振り返り、本授業で学んだことの意味を鮮明に伝える言葉を探る中で、「学びの履歴としてのカリキュラム」「学習経験の総体としてのカリキュラム」を捉え直すことを自身の学習経験を対象に具体的にに行い、そのプロセスを新たな学習評価の形として位置づけ、評価観の転換を図る)

第 15 回：公開クロスセッションでの報告

(中学生・高校生や現職教員も交えた「教育実践研究 公開クロスセッション」で今年度の協働探究の成果を伝え、普段の授業よりも異質性の高いメンバーからなる小グループで、教職課程で学んでいることの意味を確かめ合う)

■準備学習 (予習・復習) 等

個人レポートの作成と改訂。

テーマに関する文献・資料の収集・検討。

チームでの打合せ。

■授業形式

【授業形式】

演習

学年とコースの異なるチームをベースにした省察的な協働探究を重ねる。

個人レポートを持ち寄ってチームで議論し、その議論を踏まえてレポートを改訂する。

サイクルごとにチーム協働探究テーマを決め、チームレポートないしはポスターを作成する。

これらレポート群を読み直すことで、探究の足跡を振り返り、個人最終報告書を作成する。

報告書はチーム内で検討後、公開クロスセッションで報告・検討を行い、そこでの議論を踏まえて報告書を改訂する。

■成績評価の方法

サイクルごとに提出される個人レポートとチームレポート、ならびに、それらレポート群を振り返って作成した個人報告書により評価を行う。評価規準については、「教員養成スタンダード共通【E】学習成果物の評価規準」を参照のこと。

■教科書・参考書等

秋田喜代美・一柳智紀・坂本篤史・濱田秀行（2025）『これからの授業研究法入門：23 のキーワードから考える』東京図書。

石井英真（2020）『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房。

石井英真（2026a）『カリキュラム・オーナーシップ：教育課程改革の設計図』教育開発研究所。

石井英真（2026b）『今求められる学力と学び』放送大学教育振興会。

稲垣忠彦・佐藤学（1996）『授業研究入門』岩波書店。

鹿毛雅治（2019）『授業という営み：子どもとともに「主体的に学ぶ場」を創る』教育出版。

ガーゲン, K. J.&ギル, S. R.著、東村知子・鮫島輝美 訳（2023）『何のためのテスト？：評価で変わる学校と学び』ナカニシヤ出版。

木村優・岸野麻衣編（2019）『授業研究：実践を変え、理論を革新する』新曜社。

白井俊（2020）『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来：エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房。
全米科学・工学・医学アカデミー編、秋田喜代美・一柳智紀・坂本篤史 監訳（2024）『人はいかに学ぶのか：授業を変える学習科学の新たな挑戦』北大路書房。

日本教師教育学会第10期国際研究交流部・百合田真樹人・矢野博之編訳（2023）『ユネスコ・教育を再考する：グローバル時代の参照軸』学文社。

福井大学教育地域科学部附属特別支援学校編（2011）『ゆっくりじっくりスローライフ教育』クリエイツかもがわ。

福井大学教育学部附属義務教育学校研究会・秋田喜代美（2018）『福井発 プロジェクト型学習：未来を創る子どもたち』東洋館出版社。

牧田秀昭・秋田喜代美編（2026）『世界をひらく協働探究：幼・小・中の「育ち」と「学び」をつなぐ福井大附属の挑戦』北大路書房。

■その他注意事項等

教師の専門的な実践力を培う福井大学教育学部の中心的な科目である。

世代を超えた互恵的な探究のスパイラルを実現させるために、「教職入門」「カリキュラムと教育方法」「学校教育実践研究」「教職実践演習」は同じ時間帯に同じ教室で授業を行うことを基本とする。

■キーワード

パブリック・ラーニング、協働探究、世代のサイクル、真正の評価

■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

■授業形態

対面・オンライン併用授業ーリアルタイム・オンデマンド（資料配布）併用型

学年・コースをまたいだチームでの協働探究プロジェクトをオンラインで展開するため、Google Classroom を使用します。その一方

で、学年別のアナウンスや成績評定に関わるレポートの提出はUNIPA（Universal Passport）で行います。

■SDGs

4.質の高い教育をみんなに